

新年のごあいさつ



足羽福祉会 理事長
高村 昌裕



新年あけましておめでとうございます。
昨年は皆様のおかげをもちまして1年3ヶ月にわたりました。愛全園の増改築工事が無事完了しました。第二期工事では短期入所を増床し、在宅介護の支援体制を強化しました。また法人内託児所を併設し、職員が安心して仕事を継続できる環境整備にも取り組みました。

この制度変革の流れは世界の障害者福祉や国の

さて本年4月から「障害者総合支援法」が施行となりますが、ここ10年間で障害福祉の法律・制度は4回もの変更があり、現場では多大な労力が割かれています。しかしながら、その方向性は一貫して「集団から個の支援へ」「施設生活から地域生活の支援へ」と進められています。

そういうことを考えていた折に「地域で30年間、開催されてきた足羽川マラソンが幕を閉じることになる。なんとか運営を引き継ぐことはできないだろうか」という話をいただきました。

この大会は、親子向けのコース設定があつたり、皆さんに温かい「ぜんざい」が

も一致しており、その中で私たち職員に求められる専門性も変化しています。障害特性を理解したうえでの「個に対する」支援の専門性はもちろんのこと、一人ひとりの意思決定をどう支えるか、生活に対する願いや希望をどう叶えるかという支援では「個」と地域社会や望ましい環境を「つなげる」専門性が必要となってきたのです。つながりをどのように見出し、育くんでいくのか、私たちは感性を磨いていかねばなりません。

このような地域の場づくりを担い、発展させていくことは、当法人が目指す「赤ちゃんからお年寄りまでが安心して暮らせる共生社会の実現」につながるものと判断し「足羽川ふれあいマラソン」として運営継承を申し出ました。

新たな挑戦になりますが、たくさんの方々が「共に」笑顔でふれあえる場となるよう、一歩一歩取り組んでまいります。

本年も何とぞ皆様のご理解、ご支援をお願いいたします。



第30回足羽川マラソン
利用者の方と伴走ボランティア

配られたりするなど、とて もアットホームな運営であつたので、足羽ワークセンター や足羽学園の利用者の方 もたくさん参加されていま したし、大会終了を惜しむ 声が多くあることも伺い ました。

男女の幅広い世代の人たち が一緒に楽しめるという特 徴があります。そこに障害 のあるなしは関係ありませ ん。また走者同士、伴走、沿 道での応援、ボランティア など、さまざまなか出会い、 つながりが生まれる場にも なります。